

「月曜に会社に行きたい」という気持ちが一貫して高精度の部品作りを支える

毎日の理念共有と人間教育が一貫して高精度な技術を支える

西精工株式会社は、さまざまな形状・材質・用途のナット・パーツの設計・製造・販売までを一手に手掛ける企業だ。同社の部品は自動車・家電・建築機械など幅広い分野で求められ、特に国産車ではほとんどの車に使用されている。同業界内における同社の強みは、高精度、高品質、極小といった高度な加工技術が要求される「ファインパーツ」と呼ばれる部品だ。「コストダウン要請が多い業界にあるからこそ、コストダウンの必要がない付加価値の高い製品をつくっていかねば」と代表取締役社長の西泰宏氏は言う。ナットという部品の性質上、品質の均一性が生命線となる。そのため、同社ではたゆまぬ技術鍛錬を怠らず、使命感を持って確実に仕事と向き合う社

員が製品の高度な安定性を保ち品質を向上させ続けている。その継続的な努力を支えるのは、一日も欠かさない毎日の理念共有と人間力向上を目指す職場環境だ。

西氏は15年前、当時の常務が急逝したことから、勤めていた東京の広告代理店を辞め、父が経営する同社に入社した。衝撃だったのは「暗さ」だったという。発言しづらい雰囲気から、理念共有や創造的提案のための意見交換を行なうことは難しかった。「社員も社内もとにかく暗かった。まずはここから改善だと考えました」と同氏。早速、自ら毎朝6時に出勤して社内の掃除を行ない、明るいあいさつを始めた。当初は怪訝な様子で見ていた社員も、「まずは自分がやる」「社員が大事だ」という同氏のぶれない姿に少しずつ追随していった。

2008年、社長に就任した同氏は、

「良い会社をつくりたい」と、参加した勉強会で聞いた「社員に対しての文言が入っていない理念は理念とは言えない」という言葉が胸に響いた。そこで、「理念はトップダウン、ビジョンはボトムアップ」の考えを軸に、一年間かけて理念を制定した。次に取り組んだのは、一人一人への浸透だ。西氏は、毎朝6時半に、日常の事例に落とし込んで理念を伝えるメール「西精工で大切にしたいもの」を社員に送信し始めた。社員には17時までに感想や意見を返信してもらい、それに社長の思いを添えて送り返す。これを3年間続けた結果、理念の本質を全社員で共有できるようになったという。現在、このやりとりは「フィロソフィー」と名付けられた同社の行動規範の一部としてまとめられている。

理念浸透の深さは、部署ごとに1時間かけて行なう朝礼にも表れている。朝礼では社員が輪になって並ぶが、その整った様子にはチームワークが象徴されているかのようだ。「輪は大事です。コンディションが悪い社員がいると、そこだけ輪が乱れる。意識して声をかけるようにしています」と、この日、朝礼の進行役を務めた係長の久保浩司氏は語る。朝礼は、理念と行動規範の唱和に始まり、その後、3~4人のグループごとにフィロソフィーを話し合う。さらに、グループ発表、発表に対する質問と続き、計40分を割く。この地道な積み



始業後に行なう朝礼。チームワークを象徴するかのよう、きれいな輪がつくられている。毎朝40分を割きフィロソフィーを社員同士で深く考え合うことで、理念浸透を図っている。



社員アンケートでは、全社員の80%以上が「月曜日に会社に来るのがわくわくする」と答えている。このモチベーションが同社の経営ビジョンの「ひとつづくりを基点に 徳島から世界へ ファインパーツの極みを発信する」を実現している。

重ねの実績こそが同社の財産であり、そこから生まれた社員一人一人の強い信念が、同社の顧客ニーズをくんだ対応の源にあるのだ。

全社一丸となる風土を育む 経営と感謝の勉強会

「私たちは、お客様や協力会社、地域の人々、働いている仲間感謝し、お互いにとってなくてはならない関係を築き上げます」。これは理念の一文で、社員の幸せを願う気持ちが込められている。西氏はその実践として、社員に向けた心の勉強会を行なっている。例えば、あえて嫌いな人を思い浮かべて「ありがとう」を30回唱える。ある社員は、嫌いな父を思い浮かべ、勇気を出して「ありがとう」と言っていたら涙とともに感謝が溢れ出し、気付けば100回以上も繰り返していたとい

う。その後、その社員は父が入院する病院へ行き、直接「ありがとう」を伝えることができた。他にも、社長講師のリーダーシップ勉強会、社員が講師となる「企業内大学」における勉強会などさまざまな学習機会を設け、社員一人一人の幸福を目指している。

同社は、会社を挙げて徳島マラソンに参加している。80人以上の社員が走り、他160人の社員はボランティアや応援に回る。ボランティア参加の社員は「1日に1,000回も『ありがとう』を聞いたのは初めて」と話す。これは社会貢献であると同時に、学びの場なのだ。

廊下に貼られた各自の宣言書も、社員の幸福を見守る証のように見える。「私の幸福感」「自分の役割」「信条(10カ条)」「死ぬまでにやりたいこと」などが1枚の用紙に記入され、顔写真・名前とともに公開されているのだ。互いの魅力を知り、公私ともに質



付加価値の高い製品「ファインパーツ」で、顧客にとって「なくてはならない会社」を目指している。



多い月には5,000枚以上記入される「ありがとうカード」。毎月「ありがとう賞」も選出される。

的向上を目指す集団であることを、社員同士が感じ合える取り組みだ。「西精工に入社して人生が好転した」「相手に感謝の気持ちを持てるようになった」「この会社で働けて幸せ」。社員は口をそろえる。社員アンケートには「月曜日に会社に来るのがわくわくする」という質問項目があり、同社では80%以上が「わくわくする」と答えている。

部署同士がそれぞれの勉強会に参加するのは日常的だという。また、部長が集まる会議では詳細な議事録を取り、必ず全社員と共有する。さらに、各自の一週間の出来事を提出する「私の一週間」というレポートの中から数名分を社内広報に掲載するなど、「それぞれの部署と会社の状況を皆が把握できる仕組みがある」と営業部の山田有璃氏は話す。こうした日頃の情報共有が、全社一丸となって協力し合う風土を育てているのだ。

会社概要

- ・法人名：西精工株式会社
- ・代表者：西 泰宏 代表取締役社長
- ・所在地：徳島県徳島市南矢三町1-11-4
- ・設立年月：1960年8月
- ・資本金：30,000,000円

- ・ホームページ：http://www.nishi-seiko.co.jp/
- ・社員数：正規238名、パート・アルバイトなど4名
- ・事業内容：ナットを中心としたファインパーツの製造・販売（自動車、家電・弱電、住宅設備機械、建設機械、ゲーム機）